

0126
1893

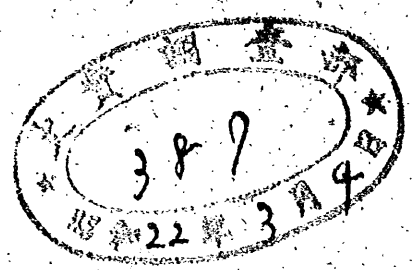


大井機密第 號
昭和十九年八月三日

軍艦大井戰鬥詳報

昭和十九年七月十九日南支那海對潛水艦戰鬥

軍艦大井



000. 1

1894
0127

	七	六	五	四	三	二	一	
(ハ)	(ロ)	(イ)	参	功	戦	令	経	計
死	行	戦	考	績	果	達	過	勢
傷	動	訓			及	報	劃	方
者	圖	所			被	告		
調		見			害			
査								
表								

目次

(終)

昭和十九年七月十九日南支那海對潜水艦戰鬪詳報
軍艦大井

一 形勢

(イ) 諸情報ヲ綜合スルニ南支那海ニ常時敵潜水艦數隻出沒シ

ツツアリ

(ロ) 大井敷波ハ南西方面部隊電令第四九號ニ依リ大井艦長之ヲ

指揮シ七月十日一二〇〇「スラバヤ」發 昭南經由十六日「マニラ」着

南西方面艦隊司令部人員物件輸送任務終了昭南ニ於テ

第十六戰隊ニ合同セシガ爲同十八日〇五〇〇「マニラ」ヲ出撃セルモ

出撃直後敷波機關故障(重油ニ海水混入ノ爲林火火汽釀困難)

ノ爲一旦灣内ニ入泊右復舊ノ上一五〇〇灣外ニ出撃セル

(ハ) 天候及戰場狀況

(イ) 七月十九日一二〇〇ノ天候海上ノ模様

5681
8210

二 計劃

山行動豫定

十七日迄ニ知り得タル南支那海ニ於ケル敵潜情况ハハラワノ海
 峽「ホルネオ」北西海面ニ敵潜出没ノ疑アリタルモ連綴航空基地
 ヲリヌル飛行警戒ヲ期待シ得ルト北方航路ニ比シ航程小ナル理由
 ニ依リ「ハラワ」ノ海峽「ホルネオ」北西岸經由ニ于テ刻「ダツ」岬

當時比島北西海面ニアリテ北西ニ向ヘル颶風ノ影響ヲ受ケ相
 當ノ荒天ニシテ速力十八節ニ於テ屢々海水艦橋ニ至ルコトアリ
 又針路ニ依リ相當ノ動揺アリ

SW	風向	風速	天候	雲形	雲量	視界	氣温	氣圧	方向	波高	横動揺	縦動揺
16米				曇	1.0	1~7軒	28.5C	756.3	SW	6	5	
											左 3°	右 3°
											~10°	~10°
												2°~5°

東方海面（「クチ」西方）ニ於テ大井ヨリ敷波へ燃料補給ノ上ニ
一日午後昭南軍港着（使用速力十八乃至二十二節）ト定ム
（ロ）行動豫定變更ノ経緯

〇八〇〇「マニラ」灣ヲ出撃シ豫定航路ニ從ヒ南下セントセシ時敷
波ハ重油ニ混入セル海水ノ爲汽釀困難ナル爲一應「マニラ」灣内ニ入
泊燃料タンクノ整理ヲ行ヒタル後出撃スルコトセリ其ノ間ニ得タ
ル敵潜情報ニ依レバ「パラワン」海峡ヨリ「ミリ」沖ニカケ少ナクトモ
三隻ノ敵潜ノ伏在ヲ豫想セラレタルヲ以テ左ノ通り豫定航路ヲ變
更セリ

- (1) 一四〇〇假泊地發一五〇〇掃海水道出撃
- (2) 新南群島北西海面「パダラン」岬（カムラン灣南方）沖經由
佛印南岸接岸
- (3) 二十日夕刻「サン」岬「ツク」沖假泊大井ヨリ敷波ニ燃料約一〇〇

868T
1310

三
經
過

噴補給
(4)同日二二。出港 二十二日午前昭南着

(1) 戰鬪生起前ノ經過

月日
時刻

戰鬪經過

七、一八
曇時々豪雨
風強
一五〇〇

マニラ灣掃海水路出撃
針路二四〇度速力二十二節
隊形第八警戒航行序列別法
本行動中特定セシモノニシテ敷波ヲ大井ノ左六〇度
三軒ニ占位セシム

七、一八
一八四五

七、一八
時刻不明
七、一九
〇三三
頃

之字運動一齊回頭特定之字運動之法別法時刻法

本行動中特定セシモノニシテ之法ノ十分航程ヲ五分

航程トシ時刻法トセルモノ

十八日〇二九北緯十三度東經百十七度三十分ニ測定精
度Cノ敵潜水艦アリトノ敵潜情報ニ依リ針路ヲニセ〇
度ニ變更ス

敷波波浪ヲ被ルコト甚シキヲ以テ速力ヲ二〇節ニ減ズ
風浪大ニシテ視界不良屢々敷波ヲ見失フ狀況ナリシ
ヲ以テ隊形速力ノ字運動ヲ左ニ改ム

(1) 順番號單縱陣(大井敷波ノ順)間距離一〇〇米

(2) 速力一八節

(3) 一齊回頭特定之字運動A法

第十六戰隊特定之字運動A法ノ航程ヲ五分

006T
8810

七、一九一
〇三四五

七、一九
〇六四五
七、一九
〇九〇〇

七、一九
一三一四

トシ時刻法トシタルモノ

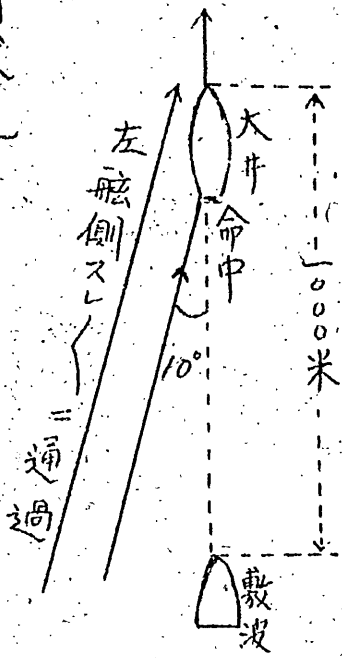
十八日〇二〇九新南群島北東海面ニ測定シタル敵潜位置ニ對シ漸次離隔セントスル對勢カニテリタルヲ以テ二六〇度ニ變針

同右ニヨリ二五〇度ニ變針

前項敵潜トハ既ニ相當離隔セリト推定セルト共荒天ノ為航程減耗大且燃料費額ヲ考慮シ航程ノ短縮ヲ計ル為新南群島寄りノ針路トナシ航路要點以外ハ最大使用速ガラー八節トスルコトニ改メ針路ニ三五度ニ變針

左艦尾ニ雷跡發見コ面航一杯ヲ令シタル直後後部機械室左舷ニ魚雷一本命中通信航行不能トナレリ被雷時ノ狀況

(6) 艦内状況



- (1) 位置北緯一三度一分東經一四度五二分(推定位置)
- (2) 隊形順番號單縱陣
開距離一〇〇米
- (3) 基準針路 二三五度
- (4) 速力 一八節
- (5) 之字運動
一齊回頭特定之字運動A法被雷時基準針路

(i) 艦内哨戒第三配備別法

見張員一六名内四名ハ對勢觀測所ニアリテ雷跡
肉眼見張ソノ他配備法ニ関シテハ別紙第三見張
配備参照

(ii) 晝食前ニシテ敬言戒通路開キアリ

(iii) 艦長 航海長 見張士 掌航海長 前艦橋ニアリ

哨戒長 水雷長

哨戒長附 水雷士

見張指揮官一分隊士

機関科當直將校 八分隊長 (前機)

同 副直將校 後任機械長 (後機)

(k) 海上模様

動揺ト風速大 (一六米) ナリシト時々襲來スルスル

1903
9310

(10) 戦艦生起後ノ経過

天候時刻

戦

艦

経過

過

(8) 雷跡發見狀況

ノ為見張力ノ低下相當大ナリ海上白浪竹助ヲ引キ
氣泡雷跡ノ發見又極メテ困難ナル情况ニアリ

一三二四艦橋見張指揮官「雷跡右艦尾」ト報告殆ド
時ヲ同シクシ掌航海長モ「雷跡艦尾近」ト報告セリ
報告ニ瞬間疑念アリシモ雷跡確認ノ暇ナク發見者
何レモ左舷ニ在ル點ヨリ哨戒長ハ左舷ノ誤報ナリト
判断「面舵一杯」ヲ下令未ダ舵効カザルニ後部機
械室左舷ニ一本命中他ノ一本ハ左舷至近距離ヲ
首尾線ニ並行ニ通過セリ

10

一二三四
 暴風向 SW
 風速一六米
 波浪五
 ウネリ六
 一二二七

左舷後機ニ魚雷一命中直ニ配置就テ防水ヲ令シ
 敷波ヲミテ爆雷攻撃ヲ實施セシム(効果不明)
 後機及後方隣区漏水前機ノ浸水ニ對シ遮防並ニ補
 強ヲ行フ後部沈下(約二米)ニ對シ前部注水可能区
 劃ヘ注水ヲ行フ
 後機右舷後方ヨリ黒煙上昇スルヲ認メ後機重油火
 災ナルヲ發見直ニ消火作業ニ從事ス
 被害部ヨリ蒸氣噴出スルヲ以テ後方ヘ行ク蒸氣
 被響部ヨリ蒸氣噴出スルヲ以テ後方ヘ行ク蒸氣
 西舷交通弁ヲ前機ニ遮断ス左舷置及後機ヨリ火
 焰上昇スルヲ認ム
 西舷交通弁遮断セルニ拘ラズ前機内ノ蒸氣漏洩止
 ラズシテ前機内作業困難トナリタルヲ以テ一應使用罐
 ヲ消火ス前機内所要弁閉鎖後所要罐點火前機排

一四二三

水ヲ開始ス

前機室大排水ニ成功シ左舷外軸ノミ使用可能ノ報告ヲ得タルヲ以テ船ヲ風浪ニ立テ作業ヲ容易ナラシメンガ為

左舷前進半速ヲ令ス

一四二八

震動大ニシテ損傷部擴大ノ恐アルヲ以テ停止ス

一四三〇

左正横近距離ヨリ再度雷撃(三本)ヲ受ケタルモ前方通過(潜望鏡發射氣泡ヲ認メズ)直ニ射點附近ニ對

シ砲撃ヲ行フト共ニ敷波ヲシテ爆雷攻撃ヲナサシム

一四五五

機械使用ニ依ル震動ノ為再ビ前機ニ浸水シ排水モ遂ニ及バズ全機使用不能トナル

一六〇〇

後部ノ火災鎮火シ浸水量増加ヲ認テ列ル

一六一〇

風浪ノタメ作業ノ相當困難ナルハ豫想セルモ右ノ狀況ニ於テ可能ナル唯一ノ手段トシテ敷波ヨル曳航ヲ

一六五二 決意シ面艦ニ對シ火々曳航被曳航準備ヲ令ス
被曳航準備完了

一七一〇 名月威射撃(五〇發)ヲ行フ

損傷部ヨリ後部ニ作業中ノ人員(約十五名)ニ對シ前
部ニ移動ヲ命ズ

一七二五 損傷部ヨリ艦體兩断ス(後部ノ人員中大半ハ前部ニ
移動ヲ了シアリ)

一七二六 一總員上甲板ヲ命ズ

鑪室其他下方區劃ニアル者モ全員上甲板ニ出テ艦
橋附近及之ヨリ前方ニ集合ス

一七二八 切断部ヨリ徐々ニ沈下スルヲ認メ一總員退去ヲ令ス
救助艇トシテ一二艇ヲ卸シ乘艇ヲ開始ス

御寫眞御勅諭ハ衛兵副司令之ヲ奉シニ艇ハ奉移ス

一八四〇

右舷へ傾斜約三十度且切断部沈下ニヨリ艦首除々ニ
 上昇シ始メ前後傾斜四十度附近ヨリ急激ニ傾斜増大
 切断部ヨリ前部殆んど直立シ海中ニ没入ス此際艦
 橋ヨリ前方ニアリシ人員ノ大部ハ艦體直立ト共ニ身
 ヲ支へ得ず海中へ轉落ス
 切断部ヨリ後部又傾斜増大シ前部ト殆んど同時刻
 ニ損傷部ヨリ没入一七三五全ク艦影ヲ没ス
 二三カ敷波内火艇ヲ以テスル救助作業ハ激浪ノ為極メ
 テ困難ナリシモ幸ニシテ敷波ハ沈没點ノ風上ニアリシ為
 風落ヲ利用シ人員ノ大部ヲ直接救助シ約一時間ニシテ
 海上ニ浮泛セル總員ヲ救助シ得タリ
 敷波ニ依ル救難作業終了

一 御寫眞御勅諭奉移

1908

0141

14

二 收容人員

禮長以下准士官以上 三二名

(内一名便乗者一名收容後戦死)

下士官兵

三三六名

(八) 各部經過並ニ處置

(九) 内務科 (應急) 關係

(一) 應急部

(二) 被害前狀況

艦内哨戒第三配備別法 (應急關係トシテ艦内傳令一
速力通信器當番一應急員一配員中)ニテ航行中

後部機械室左舷ニ臭雷一命中

(三) 被害箇所及狀況 (別圖第一、ニ参照)

後部機械室 變壓機室 機械工場 機関科 要具庫 破壞
浸水 火災 各軸室 製氷機室 第二空氣壓縮機室 水
雷科 砲術科 通信科 主計科 内務科 電機倉庫 破壞
浸水 下甲板五區 (艦長室 通路) 浸水 火災 後部 電信
室 艦長浴室 前火災醬油庫 艦長室 糧食庫ニ號涉

水唧筒室水雷火藥庫二十五耗機銃彈藥庫下甲板
 六區(士官室通路)浸水(含重油)十三十四橫隔壁重油タンク
 上部七八九十一十二十三十六十六破壞後樞折損探
 照燈基短艇甲板落下七八番聯管海中落下被害後
 前部機械室主軸貫通部ヨリ浸水艦長浴室通路延燒
 (iii) 處置

一 甲板六區(士官室通路)前方隔壁防禦扉蓋ハ被
 害時爆風ニ依リ破裂倒壊シ下甲板六區ニ浸水(含
 重油)セシヲ以テ第一二三應急班員(上工曹一、二曹一
 水長三、工兵長三、水一)ニテ下甲板七區(第一士官次室
 通路)前方隔壁上下補強並ニ艦長浴室通路各
 防水扉蓋閉鎖損傷箇所ヨリ後部ニ在ル重重
 物海中投棄之被害上同時後機満水ニ後部約三米沈下セルヲ以テ第一

應急班員(上曹一、上工曹一、水長二、工兵長二、上工一、理髮手
 一部)以テ、三、四番船艙ニ注水シ、トリムヲ修正セントス
 注水量約十噸
 一、機室消防唧筒(三〇噸)ヲ起動、蛇管二本後部機械室
 上ニ導キ、消火セントスルモ、消防唧筒圧力揚ラズ、早急ノ用ニ
 立タガルヲ以テ、移動唧筒一基ヲ以テ海水消火ニ努カメ、一方
 毛布ヲ水ニ浸シ、火元ニ投入、合セテ前部ニ分置シ、アリタル泡
 沫發生劑ハ波浪ノ飛沫ニ依リ凝固シ、效果不充分ニ付、直接
 火元ニ投入ス、又ハ配食器ニ落シ、打掛ケ以テ消火ニ從事ス、其ノ
 後漸次圧力上昇シ、各蛇管ニ泡沫發生器ヲ取付ケ、消火ニ努ム
 火勢依然トシテ衰ヘザルヲ以テ、更ニ蛇管二本ヲ導キ、後部機
 械室及艦長室通路ノ火災ニ對シ、海水及泡沫消火ニ從事ス、
 其ノ間波浪及クホネリ、大ナルヲ以テ作業ノ困難ト合セ、漸次

浸水増大シ後部機械室ノ火災ハ之ガ為却ツテ消火ヲ早ム
ル原因トナリ尚艦長室通路ノ火勢大ナルヲ以テ蛇管一本ヲ導
キ機関料應急員十名ヲ以テ消火ス此ノ間曳航準備ヲ令
セラレタルヲ以テ直ニ關係員ヲ以テ完成敷波ノ曳航準備完成
ヲ待テオリタルニ連續セル波浪ト「ウネリ」ノ為損傷部附近
ヨリ切断沈没ス

(14) 器材並ニ人員

毛布 一〇枚 泡沫發生器 四個 蛇管 三五本

吐水口 六個 配食器 三〇個 移動唧筒 一基

泡沫發生劑 七五罐

第一、三、五應急班及五(砲術科)六(水雷科)七(主計科)

予備應急班

(二) 電機部

(1) 被害前ノ狀況

- (a) 配電區分 第二敬言或配電全通
- (b) 使用發電機 多台二號發電機 一號發電機 煖機 完成中
- (c) 諸管系 敬言或區分
- (d) 配員 主配電盤下士官一 發電機兵一
- (e) 通信裝置 變壓機下士官一 計三
- (f) 五〇V配電區分 五〇V交流機 多台三號交流機 運轉中
- (g) 海科系送電中 一台三以テ機關科系砲戰水雷戰系航
- (h) 二〇V配電區分 昇降機附發電機及蓄電池併用中
- (i) 各科送電中
- (j) 待機員 艦長室前通路下士官三 第三兵員室下士官三
- (k) 被害箇所及狀況並ニ處置
- (l) 變壓機室後部機械室

1914
0147

魚雷命中爆風ニ依リ室内及上甲板破壊室内諸装置全部大破入室不可能當直員一名戦死

(c) 主配電盤及發電機

被害ト同時ニ自動遮断器激動ノ為断艦内電源全部停止ス直ニ後部ニ至ル開閉器及其他動力開閉器ヲ断トナシ自動遮断器ヲ接トナシ送電スルモ發電機及前部ニ至ル電路人員ニ異状ナシ(被害前540A被害後180A)一號發電機ニ異常電機復川後直ニ併列運轉ヲ行ツモ負荷少ク為分掌指揮官ノ指令ニ依リ單獨運轉ヲナセリ
暫時右狀況ニ運轉中ナリシモ主蒸氣管非常ニ依リ主隔壁弁閉鎖ノ為發電機停止

(c) 電路關係

後部機械室ヨリ後部ニ至ル通信動力電灯各電路何レモ切断地絡處置ノ方法ナシ

(4) 被害後一部人員ヲ以テ輕便發電機100Vノ運轉ヲ行ヒ前部火藥庫附近ノ照明ヲナスモ燃料僅少且激動ニ依リ一部故障ノ爲暫時ノ後停止修理ニ專念セシモ既ニ燃料ナクシテ使用不可能トナレリ水雷科三號蓄電池三型ニ基テ以テ一部ノ照明ヲスバク殆ド配線終了時船体右舷ニ傾斜總員上甲板ノ令マニテ作業ヲ中止セリ

(2) 機関料関係

(一) 機械部

(1) 被害前狀況

艦内哨戒第三配備 諸管系敬言戒区分主四軸運轉強
速十八分即當直人員(前機機関料 當直將校(下士官兵九)
(後機 機関料副直將校(下士官兵七) 製氷機(下士官兵二)
當直員以外第五兵員室二待機中急雷命中

(1) 被害箇所及狀況

後部機械室機関料要具庫破壊浸水火災製氷機室第
二空気圧縮機室破壊浸水各軸室浸水軸彎曲
被雷と同時に暗黒ナリ直ニ應急灯具真灯機関指揮
通信装置傳聲管ノ外使用不能前部機械室電
圧回轉速度計右内軸受信器ノ指度一二。回轉其

他指度零々蒸気圧力十三%前後機隔壁上部亀裂
 部ヨリ蒸気噴出主軸負通部ヨリ海水浸水ス後部機械
 室之傳聲管ニ叫カモ應答ナシ探知員報告ニヨリ後
 部機械室破壊浸水蒸気噴出後機室當直員總員
 戦死ス被害直後機関料人員調査スルニ左ノ戦死
 者凡テ判明ス當直中戦死九名(准士官以上一名下士官
 兵八名)其他ノ戦死三名(准士官以上一名下士官兵二名)

(III) 處置

總員配置就其非常部知悉以予機関故障ヲ艦橋ニ報告(電源ナキ爲
 實際ハ通達也)非常部ヲ操作主隔壁亦閉鎖シ兩舷前進操縱弁ヲ
 閉シ功後部隔壁ニ補強ヲ下令ス主蒸氣ハ兩舷交通弁(後機ニ至ル)ヲ閉
 鎖シ同時主給水カクシ前後部交通弁(約一面啓開中)ヲ閉鎖ス非常
 部操作在モ蒸氣噴出止メ前機在室困難ト立依テ踵消火ヲ下令
 主機室蒸氣管系ヲ次ノ如ク處理ス
 補助蒸氣後部而舷遮断弁補助蒸氣後部遮断弁ヲ閉鎖シ補助蒸
 氣管系ヲ通巾區分直ニ補助蒸氣管ニ通氣シ熱氣排除シ排水
 爲通風機ニ流シ水ホシ及ニ號消防ホシヲ起動シ大排水始動
 ス大排水成功ト認ム浸水増加ヲ認ム(浸水量下部床板下約四〇厘
 主機機邊轉用補助機機起動主蒸氣管系ニ通氣ヲ始ム主機機確認
 試運轉ヲ行フ左舷外軸使用可能ト認ム右舷外軸操縱弁ヲ啓開

(二) 罐部

被害前、状況

此モ發動モ依テ艦橋ニ左舷外軸使用可能ヲ報告ス艦橋ヨリ傳聲
 管ヨリ前進半速ノ速力ヲ指令アリ左舷外軸發動回轉數九〇ニ艦橋
 ニ報告暫時ニテ前進微速ノ指令アリシモ減速装置ヨリ音響ヨリ發シ
 次第ニ音響ヨリ「グ」大トナリ震動ヲ始ム艦橋ヨリ機械面轉情況
 ノ間合ニ接シ左舷外軸回轉數九〇在旨ヲ報告セルモ此ノ儘運轉繼續ス
 ル不可能ト認ムル頃停止指令ヲ依テ豫後亦ヨリ開切ル
 大排水續行中在モ主機械停止後浸水重漸次増大驚愕由モ主軸ヲ運轉
 セル爲メ員連部擴大シ急ニ浸水増加モ認ムル補助機械運轉不能在
 室不可能トナリタル爲メ運轉中ノ補助機械ヲ停止シ上機械室在員總員
 上甲板出テ當時浸水量數度ニ一米半爾後半數後機火災ノ消火ニ
 努メ殘餘人員ヲ以テ水雷甲板ニ在リ輕質油トシテ罐海中投棄處理
 並ニ免航準備揚錨機用意ニ從事セシム

艦内哨戒 第三配備 使用罐(四五六八十號罐)

使用重油タンク上部一二番

當直三直 當直人員(二罐室下士官共二〇)三罐室機関科副直
將校一(下士官共九)當直員以外第六兵員室待機中急留命中

(ii) 被害箇所及状況

重油タンク上部七八九。十十二下部十三十四十五十六破壊浸水被害
ト同時ニ暗黒トナリ直ニ應急灯具点灯ニ三罐室蒸気圧力一四kg/cm
ニ降下シ暫時ニシテ三罐室給水塩分上昇ス

(iii) 處置

總員配置ニ就キ一罐室消防ポンプニ後轉起動スニ三罐室圧力下降為
燃燒度ヲ下ゲ三罐室給水塩分上昇ノ為豫備水タンクニ切換フ使
用重油タンクヲ戰闘ニ分スニ三罐室下部四番三罐室下部五番番
各罐獨立汽釀トシ汽釀中前機室カク減水ニ罐室給水ポンプ

空轉スルニ付豫備水カシクニ切換フ機械室於テ非常操作セ
 シ蒸気噴出止ラス使用罐一時消火艦ノ傾斜復原ノ為重油
 カシク上部四番ヨリ上部一番ハ重油移動蒸気遮断中急
 速重油移動ヲ要スルニ付補助蒸気集合弁閉鎖、儘重油
 ホシク運轉ノ為一號罐至急点火ス
 大気弁ヲ啓開シ四五六八十號罐点火シ街ハ機械室ニ通氣ス三罐室
 消防主管交通弁閉鎖シ上甲板海水ヲ送り始ム主機械運轉
 ノ報ニ接ス此ノ際豫備水量シ主給水ホシク空轉スルニ付三罐給水
 両舷交通弁ヲ啓開シ給水ニ海水使用ヲ始ム上甲板吐水圧力低下ニ付
 補助給水ホシク蛇管取付口ヨリ消防蛇管取付ヲ連結シ併用
 送水ス
 前部機械室浸水量大トナリ付四罐室後部隔壁ニ補強行フ
 總員上甲板、令依リ罐消火上總員退室上甲板ニ出ツ

(3) 砲術科關係

被害狀況並被害處置

- 一 番探照灯後部短艇甲板艇ニ落下セリ 二 番探照灯海中ニ落下セリ 艦内電源停止セルモ約三分ニテ復旧射撃準備施行中再々電源停止セルタメ通信装置置距離時計及盃射撃装置全ク使用不可能トナルモ蓄電池ニ依ル應急電源ニ依リ砲戰電話發令所内照明灯ニ漸ク使用可能
- 砲側照準ニヨル全量射撃トナスモ約四十分ニテ應急電源衰弱シ各部ト連絡困難トナル發令所全ク使用不可能トナリ
- 損傷後約四五分ニテ發令所及艦橋ニ移リ豫備指揮所傳聲管ヲ使用シ射撃指揮所及砲台ト連絡ヲ保テリ
- 被害局限シ多ク彈火藥庫注水準備トナスト共ニ彈火藥庫内裝填上甲板移動ヲ試ミタルモ揚彈藥機電源停止庫内照明

1923
0156

(4) 水雷科關係
(一) 被害狀況

灯消滅 電力揚彈藥機使用不可能、夕メ人力揚彈藥裝置
ニ依リ揚藥ヲ開始約一〇〇發分前甲板ニ運搬セリ一三三〇噸
一二番機銃威嚇射撃ヲナス
第三回ノ雷撃ヲ受クルヤ主砲機銃ヲ以テ敵潛々在下認メラル、海
面(左正横前後千度二千乃至三千米)ニ對シ威嚇射撃ヲナセリ(主砲
約三十發) 曳航準備中對シ主砲威嚇射撃ヲ行フ(西舷正横
前後三五度間 二千乃至三千米 約五〇發) 之ヨリ先被害後間モ
ナク各舳ニ拳銃五挺宛立ニ所要彈藥ヲ準備セントセシモ拳銃
ノ持出不可能ナリシヲ以テ小銃各五挺彈藥各一四四〇發宛準
備セリ

魚雷兵器關係

七八番聯管ハ旋動部以上全部海中ニ轉落

五番聯管ハ甲板膨出ノ多ク繫止位置ニ於テ旋回不能且反跳止破壞

六番聯管ハ取付甲板膨出ノ多ク前方ニ傾斜旋回不能

空氣乾燥裝置及附近弁柱ハ全部海中ニ飛散附近上甲

板構造物ハ一物ヲ留メカ飛散セリ

金屬洗淨器室甲板膨出ノ爲後機入口圍ト共ニ前方ニ約

十度傾斜

空氣系統ハ機械室內ノモノ全部破壞ノ多ク魚雷發射不能

魚雷發射指揮通信裝置ハ前橋折損橋樓指揮所魚雷戰

指揮通信裝置破壞

爆雷兵器關係

爆雷ハ左右投下機ニ各四個裝備シテリニモ激動依リ左右共前端ノ各一個防弾板ト共ニ甲板ニ跳出ニ同時指揮通信装置破壊使用不能

水雷火藥庫

附近船體破損ノ多ク注水并ニ把柄使用不能火藥庫上方甲板及前方區劃ハ浸水ノ多ク冷モ水衣ヲ形成ニ艦長室通路ト官室通路ノ火災ニ對シ誘爆ノ顧慮ナリ

(二)被害處置

爆雷處分

安全裝置完全ナルヲ確メ海中投棄セリ

魚雷投棄

發射空氣裝氣ノ方途全ク無ク射出不能ナルモ狀況傍觀ヲ許サズ依リテ木桿ヲ使用シ押出シタルモ尾部臆中ニ残り魚雷ハ後部浮室部

(5) 通信科關係

(一) 被害狀況

(1) 後部電信室

九二式四號送話機改一

九五式短四號送信機改一

九五式短五號送信機改一

二號無線電話機送話機

(一) (二) (二) (二)

轉倒破壞

轉落破壞

屈折シ管口ニ至下シ投棄成功セズ
第二水雷科倉庫内一號石油四〇罐順調ニ
海中投棄セリ
ノ他甲板移動物、投棄作業ハ順調ニ終
過セリ

九三式超短波送話機

九三式電波鑑査機

(一) 隔壁離脱破壊

(二) 轉落破壊

(i) 送信機用發電機(變圧器室内)浸水

(ii) 應急用電源(蓄電池)破壊使用不能

(iii) 空中線

(iv) 後橋折損後倒

(v) 送信(話)空中線全部切斷

(vi) 受信空中線(左舷一本第一電話室ノモ、右舷一本及第二

電話室ノモ)一本使用可能ノ他切斷

(vii) 前部電信室

蓄電池若干接續部切損

(viii) 方位測定機室

杵型空中線彎曲 受信機轉落破壊

(二) 被害處置

被害時迄東一放東二放十通放昭南地方廳所系待受

一三四被害の頃、如く被害ヲ受ク依テ直ニ三ツケ五ツケニ

テ敷波ト連絡セントスルモ五ツケ連絡不良ノ為極力三ツケニ

依リ連絡ニ努ム敷波ノ三ツケ感五一一三五頃電源断トナリ

シテ以テ蓄電池ヲ前部電信室ニ搬出五ツケノ連絡ニ努ム

三ツケ送話機初翼銀ニ使用一〇〇カ三個併列状態良好ナリ

シモ連絡不如意ノ為更ニ二〇〇V三個併列トセリ

三ツケ受信機救急備ス 一二五頃應急電中線(三ツケ送話

- (vii) 前後部間ノ管制線ハ被害時切断
- (viii) 第一電話室 九三受話機用電源切断
- (ix) 第二電話室 九〇受話機蓄電池一個接續部離脱

受話機受聴電路短絡

(用)整備へシ番煙突ニ展張)一三〇頃五ツケ連絡不能ノ事
 受話機ニ九三電話受話機使用極力連絡ニ努ムルモ成功セズ
 一三五〇五ツケ双方感五連絡良好(受信機九三ノモ)雨後九〇
 電話固有ノモツニテ連絡良好トナル
 隊内連絡確保後斯ル狀況ノ長時間ニ及ブテ豫想心シ極力
 電池ノ消耗ヲ避ケ隊内連絡ニ主力ヲ注グ。
 雨後總員退去ニ至ル迄隊内連絡(五ツケノミ)極メテ良好
 一六四五本體全機使用不能トナルニ及ビ萬一ノ場合ヲ豫想
 シ登十三發受信用各一冊ヲ殘シ機密圖書竝ニ暗號書一
 切暗號室内ニ鎖鑰格納シ暗號員ヲ前部電信室内ニ移セ
 リ(登十三ノミ使用)
 一七二五體兩斷沈下急速トナルニ及ビ前記登十三暗號書ヲ
 暗號室内ニ格納鎖鑰セリ 一七三〇總員上甲板ノ令ニ依リ前
 部電信室前ニ待避セシメ退去準備ヲササシム